



健康会だより

<主旨と理念>

長谷部式健康会は『自分の健康は自分の努力で』をスローガンに健康普及活動をしている会です。健康は人生最高の宝です。世界人類の健康と平和に奉仕しましょう。『体質別』は健康を守る自然の法則です。

発行所 長谷部式健康会 総本部
〒491-0905 愛知県一宮市平和1-2-13
発行人 長谷部茂人
発行部数 3000部
tel 0586-46-1258
fax 0586-46-0367

Eメール hello@hasebe-kenko.com
URL http://hasebe-kenko.com/



値段は何によって決まる？

「薬九層倍、坊主丸儲け、按摩掘み取り」とは、江戸時代の庶民のユーモア。売値に対する原価が低いことを強調した言葉です。

近年、医薬品のニュースで、単価高騰の記事が続いています。

「治療1回1億円！新薬の高額化が止まらない理由」～日経メディカルより～2017年後半、米国で革新的な医薬品の承認が相次ぐ。リンパ球の1種であるT細胞の遺伝子を組み換えて、特定の抗原を細胞表面に有する癌細胞を攻撃するように設計したキメラ抗原受容体T細胞療法がその一例。小児および若年成人の再発性または急性リンパ性白血病を対象とした試験で、75人の患者の全寛解率は81%、60%が完全寛解を達成したと発表された。問題は価格だ。治療薬KYMRIAは約5000万円、治療薬YESCARTAは約4000万円、治療薬Luxturnaは片眼4500万円、両眼だと約9000万円と、びっくりするような価格が付けられている。なぜこのような高額になってしまうのか。実はGilead社はYescartaが承認を取得する直前に、それまで開発を進めてきた米Kite Pharma社を約1兆3000億円で買収して同製品を手に入れている。Gilead社は1兆円超の投資を回収するためには、Yescartaを高額にせざるを得なかったようだ。近頃、日本でも武田薬品がShire社買収で約6兆8000億円にもなると報じられている。創薬に必要な技術は多様化しており、社内での創薬研究よりも、むしろ社外から医薬品の種を買って来ることに注力するようになり、新薬の種を探すうちにM&A価格はつりあがってしまう。

<http://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/eye/201804/555574.html>



次は、お安くなったという記事。ところが、・・・。

～日刊工業新聞より～今年4月から新たに保険適用となったロボット支援手術。治療対象も拡大する中、第4世代となる手術支援ロボット「ダヴィンチX」が新発売となった。価格は約2億円。小型化したことで従来機「Xi」に比べて約1億円安くなった。

<https://newswitch.jp/p/13134>

1億円も安くなっています。小型化したことで安くなった？その差分の重量が一億円？どんな金属？もしかして「金」か「プラチナ」使っていた？



←新製品の
ダヴィンチX



「安全率」の高低

一般建築は200パーセント、土木は300パーセント。何の数字かを説明します。人工的な構造物には、自重（建築物・構造物そのものの重さ）、積載荷重（人間・家具・設備の重さや土木ならば土砂・水圧など）、積雪という垂直方向の力がかかります。また地震力・風圧力という水平方向の力もかかります。それら負荷（荷重）に対する力学的にあらわしたものを「構造耐力」と呼んでいます。構造耐力が通常負荷よりも下回ると、小さな地震や悪天候で崩壊しかねません。どれぐらい強固に設計すべきかの基準として、一般建築ならば通常起こりうる荷重の2倍（200パーセント）以上、土木ならば3倍（300パーセント）以上にしないとということ。



2018年2月7日に台湾東部で発生した地震で倒壊

では、ヒトの場合の建築や土木でいうところの耐力に相当する安全率はどれぐらいか考えてみます。倫理的な問題もありますので、実際に試験してみるということはできないのですが、みなさんが経験的に感じられている通りで、2倍とか3倍というような高い（強い）設定ではないでしょう。2018年6月18日大阪北部地震で倒壊した小学校の塀の下敷きになって女兒が死亡したことは記憶に新しいでしょう。

倒壊したブロック塀に挟まれて・・・

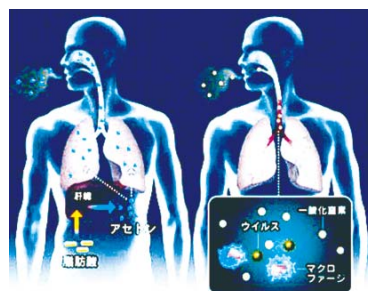


治療法が確立されているマラリアで死亡する人は年間43万人強。結核で死亡する人は140万人。エイズは110万人。近年、日本では克服したはずの梅毒患者が若者を中心に拡大しています。新種の感染症も現れる中で、2050年の将来予想として、耐性菌で死亡する人は年間1000万人は下らないといわれています。

このように不慮の災害でない病気ですら、命を落としてしまう。ヒトの安全率が決して高いとはいえませんね。

安全率が高くない私たちの身体だけでも、オギャーと生まれてから死ぬまで、平均して80年以上も、なぜ生き続けることができるのかといいますと、身体を弱らしめる個々の要因を、いち早く察知して避けることに優れた能力を持っていることがまず挙げられます。

この危機回避能力は身体のセンサー「痛い」「苦しい」「熱い」「冷たい」「痒い」他には「何となく嫌な感じ」など、どこにいても四六時中感じ取っていますね。そうです！安全率が高くないがゆえに、少しの負荷も見過ごさない、身体に異常を来す前に回避させようとするのです。



←からだの異変は
呼吸にも現れる
↓頭痛、腹痛は、か
らだの危険信号



もう一つは、1カ所の負荷を他の複数個所に分散させて、その複数から応援をもらって負荷を低減させようとする仕組み「複雑系」のなせる業です。薬や治療の副作用も、実は複雑系から起こる、一種の危険回避反応とみることもできます。

身体はいつでも全体で健康状態の平衡を保とうとします。夫々の部分が全体と関係し合って、保ちあいを行います。それは全体としてのエネルギーロスを最小に抑える工夫でもあります。生命の成り立ちは余分な無駄を排除することにある。私たちは、その無駄を抑える手段として「全体で保つ」を選んだわけです。



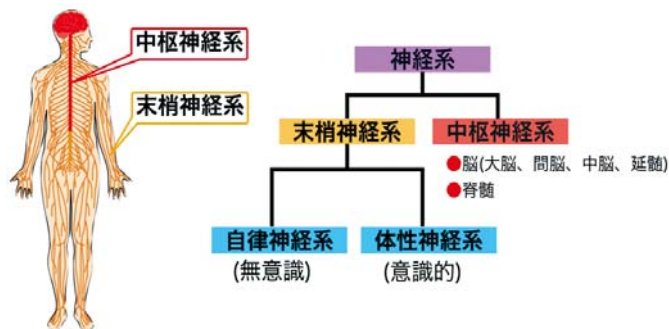
「単純系」で危機回避は可能か？

安全率は決して高くない私たちの身体。健康を維持するために先ほど書いた2つの仕組み。身体が異常を来す前に察知する優秀なセンサーを持っていること、複雑系である部分同士の相互補完。気に留めなくとも忠実に作業しているのです。

そこで冒頭の話。「製薬会社は薬の特許で守られている」⇒「特許は25年程度で切れ、他の会社のジェネリックにとって変わられる」⇒「儲けの急落を防ぐには新たな創薬が必要」⇒「自社の技術だけで創薬できない時代、バイオ企業との提携や吸収が必要」⇒「借入資本に頼って企業買収を進める」⇒「無理な資金計画で経営破綻」⇒「さらに他に買収される」⇒「製品の単価が上がる」。

どうでしょうか？論理としては、成立しています。しかし、「特許で守られる・・・」以下、「製品単価が上がる」まで、どこにも患者さんの訴えはありません。病人（受益者）の視点は度外視されているように思えてなりません。

論理の正統性が目的を制限する。それは、「単純系」の発想だからですね。



先に述べたように、人の身体は「複雑系」によって守られています。症状がでるところ、でることをいち早く察知しつつ、全体の力で克服しようとしします。良くなるまでは、「身体を休めておけ！」「無理するな！」「栄養の消化吸収エネルギーを使いすぎないように、一旦食欲を落としておこう！」「発熱させて代謝酵素の働きを高めよう！」・・・など。

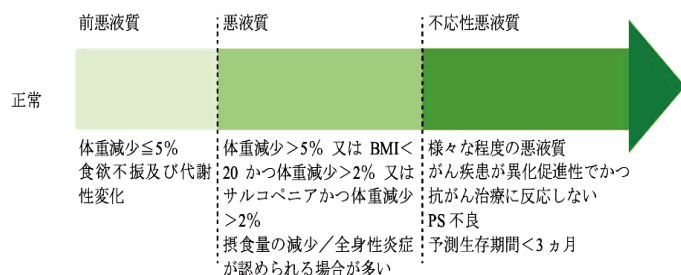
冒頭、「革新的に効く高額薬」それも、もしかすると限定的で、「効いたことは間違いない」だけかもしれません。つまり、万人に効くのではなく、患者さんの遺伝子の型と、治療薬の分子構造との相性など、条件が揃ってはじめて「効く」のであって、条件が揃っていない段階では、「全く効かない」から「とてもよく効いた」までの間の、結果がどれになるのか、決められないかも・・・。

状況によって対応は変わる

先頃、日本がんサポーターブケア学会から、「がん悪液質：機序と治療の進歩」というレポートが出されました。海外の知見をもとに、日本語版として発行されています。

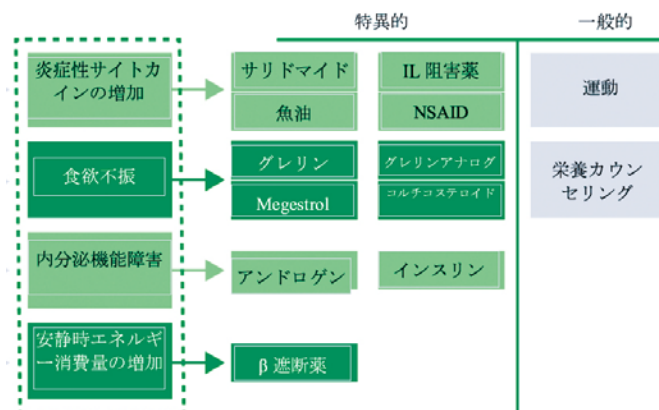
がん患者の50～80%が発症、がん死亡の20%をしめる「がん悪液質」は、体重減少、筋肉減少、食欲低下・不振、貧血などの症状を伴います。

治療のターゲットも「それら」になるわけですが、結果に喜べるような成果がでているわけではありません。



治療薬も食欲を増進させるもの、体重を上昇させるものなど、標準的なものがほとんど。成果に大いなる期待が寄せられているという報告もありません。

集学的治療モデル



「集学的治療」といわれるモデルの精度を高めよう！薬物治療のみならず、栄養サポート、運動療法、心理社会的介入など、適不適、優・良・可、様々であっても、集学的アプローチで患者さんのQOLを高めていこうとするもの。食事の回数、カウンセリング、栄養補助食品などの組み合わせ、大麻の成分であるカンナビノールなども試験材料として見つめられているといいます。

どのように感じられましたか？

- (A) いかに高額であっても治療の成果に期待する
- (B) 終局も見据えたうえでQOLの向上を目指す

医療は提供者だけで行うものではありません。患者さんも家族も周囲にいる者も、協力と同意が必要です。

「費用対効果」、治療費に対する効果を検討する。費用はM&Aで嵩んだ製品単価の上乗せ分を払うため？、あるいは手術ロボットの原価焼却費としてですか？絶対的だけれども限定的な効果というだけならば、それは利用者にとって高額である理由にはなりません。

患者さんも周囲の協力者も、まず自助努力・共助があって、その次の手段としてならば高額医療も検討してよいかと思います。単純に「これだけお金を出せば、きっと良くなるに違いない」という発想は、単純系の思考です。人の身体は複雑系によって成り立っています。複雑系の発想が一層望まれます。



2018年

大好評! ホリスティック講演会

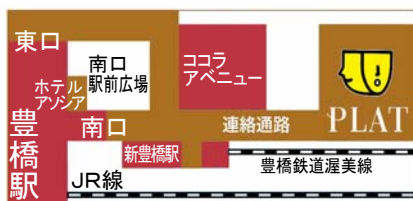
日時 7月22日[日] 14:00~16:30

会場 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 研修室(大)
※ 豊橋駅南口すぐ
豊橋市西小田原町123番地 TEL 0532-39-8810



【講師】 長谷部 茂人

長谷部式健康会代表、日本ホリスティック医学協会理事、自然・伝統医学、和法の研究家。先代が始めて40年余り、体内毒素の排泄を主体とした体質別の温熱療法・食事指導・運動指導を行っている。著書「驚異の排毒健康法」(たま出版)。
<http://hasebe-kenko.com/>



豊橋駅(JR新幹線、在来線、名鉄)南口より徒歩3分。
※ 専用駐車場はございません。公共交通機関、駅付近有料駐車場をご利用ください。

＜講座内容＞

- ☆ 健康を保つ低エントロピーは可能か?
- ☆ 少しの厳しさ、小さな危機
- ☆ 動物たちの自己治療
- ☆ 健康は何に由来するか?
- ☆ 始まりはいつも小さい
- ☆ 入力よりも出力が大きい法則
- ☆ 健康な人は食べない健康食品
- ☆ 温熱が効くカラダ、HSPとノーベル賞
- ☆ 毒も方便
- ☆ 長寿村に共通するヒント
- ☆ 間違えろ、間違わない身体
- ☆ 「考える」という重い病気



申込みサイト

健康法にはコツがある——今が変われば、未来も変わる

身体を直す信号

7月22日 ホリスティック講演会「身体を直す信号」参加申込み

ネット受付 <http://hasebe-kenko.com/study/> 長谷部式健康会 で検索 FAX受付 0586-46-0367

日時 2018年 9月24日[月・祝] 12:30~16:30

会場 iビル 7階シビックホール 一宮市栄3丁目1番2号
JR尾張一宮駅/名鉄一宮駅 構内 Tel 0586-28-9153

参加費 前売り一般 2,800円 (共催団体会員 2,000円)
※当日券は空き席がある場合のみ販売

12:30~ 映画『おだやかな革命』上映

渡辺智史監督作品 Silent Revolution

自分は、これで幸せかという問いが、ちゃんと真ん中にある。これは革命と言ってもいい。—— 辻 信一 (文化人類学者)
この映画には、静かにふつふつと湧きあがってくるものがあります。美しく、切なく、愛に満ちた光を感じさせられます。—— 鶴田 真由 (女優)

14:10~ リレーセッション

「氣力作物と自立支援」村野 政章
NPO法人アースアズマザー 副理事長/困窮者自立支援

「食と健康」高橋 信雄
高橋ファミリークリニック院長/糖尿病専門医

「和語、いのち」まどか アッセマ 庸代
南山大学心理人間学科准教授/和学

「リボーン (Reborn)、病を克服する生き方」船戸 崇史
岐阜県養老郡医師会会長/船戸クリニック院長/統合医療

15:50~ パネルディスカッション 「人と地域の元気をめざして」

パネラーはリレーセッション演者ほか以下の方々
進行: 長谷部 茂人 (一宮市神山連区地域づくり協議会副会長)

山本 百百代 (心の学校 講師・NPO法人アースアズマザー 理事長)

花谷 まさゆき (一宮市議会議員) 総司会 木村 健太 (チーム木村けんた代表)

Web受付 ▶ holistic-chubu.org/event

※アースアズマザー会員の方は ☎052-684-8000 <http://www.earthasmother.com/news/>

【問合せ】 TEL 0586-46-1273 日本ホリスティック医学協会中部支部



申込みサイト

駅東口側 観光案内所隣のエレベーター利用7階



シンポジウム——母なる地球に生きる Earth as Mother
生き方革命

● 申込み・問合せ

〒491-0905 愛知県一宮市平和1-2-13 長谷部式健康会

TEL 0586-46-1258 FAX 0586-46-0367 E-メール hello@hasebe-kenko.com